

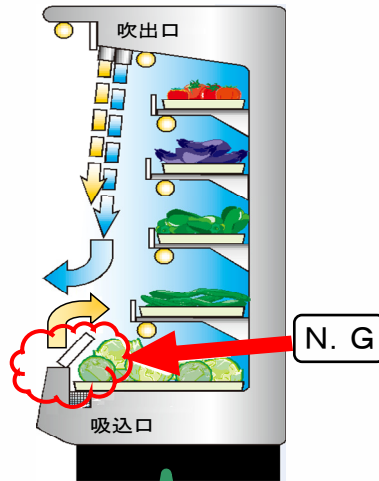
商品陳列の際は、冷気の吸込口を塞がないようにしましょう。

ショーケースの吸込み口を塞ぐような商品品列は、冷気の流れを損ねるため、冷却負荷の増大を招く恐れがあります。

そこで、ショーケースの吸込み口を塞がないような陳列を行い、冷気の流れを確保することにより省エネを図ります。

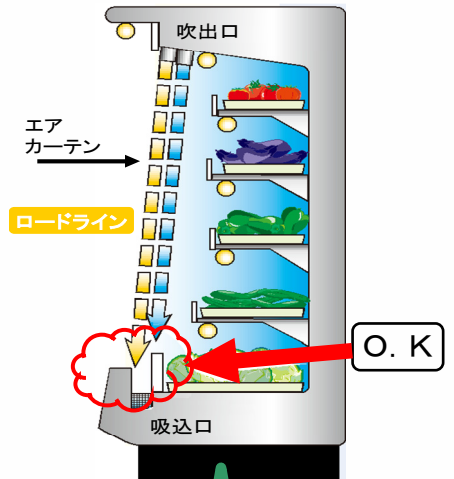
対策例

現状



吸込み口を商品や値札で塞いでしまっているため、冷気の流れが乱れて、冷却負荷の増大を招く

陳列改善後



吸込み口を塞がないように陳列しているため、冷気の流れが乱れないため、冷却負荷のムダがない

※ロードラインとは、エアカーテンをつくる冷気の内側の境目のこと

省エネ対策のポイント

- ・基本的に商品を陳列しすぎると、冷却できなかつたり、凍結の原因にもなりますので、ロードラインを超えないように商品を陳列するようにしましょう。
- ・吸込み口だけでなく、吹出し口も塞がないよう注意してください。
- ・エアコンの風がエアカーテンを乱している場合があるため、風向きを確認しましょう。

参考

<冷凍冷蔵ショーケースに有効な省エネ対策例>

○空きショーケースの停止

商品が入っていないショーケースの運転を停止することで、節電になります。また、多段式のショーケースは冷気漏れが多いため、冷気漏れの少ない平型ショーケースに集約することで節電になる場合があります。

○防露ヒーターの停止

ショーケースの結露防止用ヒーターを停止することで節電になります。ただし、ヒーター停止後、ショーケース内に結露が発生した場合は、すみやかに防露ヒーターを稼働させてください。

※なお、ショーケースの性能等によって実施できない場合がありますので、具体的な実施にあたっては、メーカーへご相談ください。